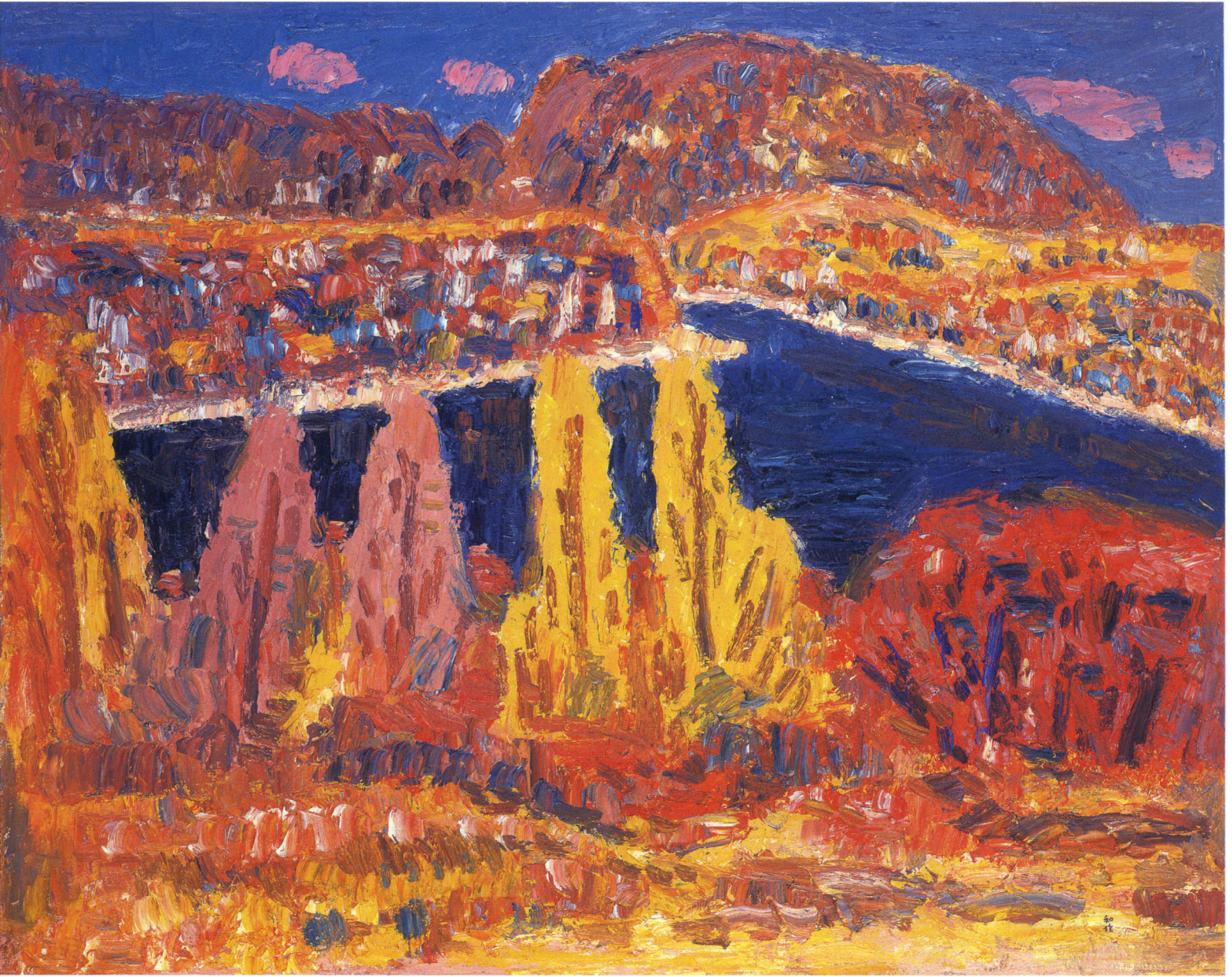


尾道市制施行110周年記念

生誕120年

# 小林和作 天地豊麗展



平成20年 8月1日[金]~9月28日[日]

主催：尾道市立美術館、中国新聞備後本社  
後援：広島県教育委員会、NHK広島放送局、尾道ケーブルテレビ、尾道エフエム放送  
協力：求龍堂、小林和作忌協賛会、山口県立美術館

開館時間：午前9時~午後5時(ただし入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日(9月15日は開館)

観覧料：大人/700円、高大生/500円、中学生以下無料

[前売は各200円引、団体(20名以上)は各100円引]



〈キャラクターデザイン かわぐちきょうじ〉

ONOMICHI  
CITY MUSEUM  
OF ART

尾道市立美術館

〒722-0032 尾道市西土堂町17-19 千光寺公園内 Tel.0848-23-2281



(左) 小林和作 (右) 須田国太郎

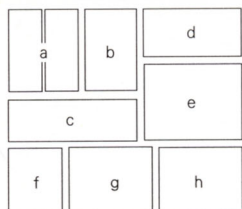
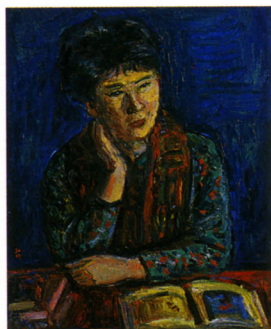
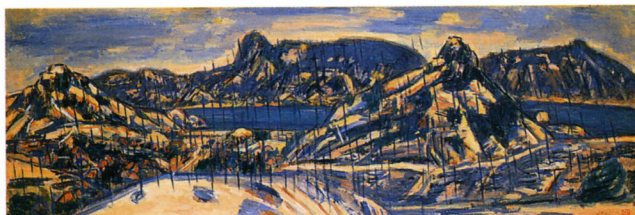
平成20(2008)年、尾道市は市制施行110周年の記念すべき年を迎えます。市制の施行は明治31(1898)年、その10年前の明治21(1888)年8月14日、のち、尾道の文化振興に深く関わり、名誉市民にも選ばれる洋画家小林和作が、当時の山口県吉敷郡秋穂村(現 山口市)に父和市、母ヨネの13人兄弟姉妹の次男として誕生します。画家としての過半を、この尾道で過ごすこととなった和作は、「豊麗」な色彩と堅固な構図として知られる独自の画風を確立していきました。親友須田国太郎は、こうした和作について「ルノアルやマチスが南仏に晩年を送るに至ったのは、いろいろわけもあるが自分の仕事にぴったり適合した場所ということであるに違いない。小林氏の場合は全くこれであった。小林氏は常に尾道程優れた自然はどこにも見出せないという。こういうことが本気で云えること自体が幸せである。(中略) 小林氏は尾道に自己の芸術を見出したのである。」(『みづゑ』534号/昭和25年)と述べています。

このたびの展覧会では、日本画、油彩画81点を紹介します。ぜひこの機会に、尾道にその芸術の軌跡を色濃く残し、「絵のまち」尾道の基礎を築いた「小林芸術」の真髄をご覧ください。

生誕120年

尾道市制施行110周年記念

# 小林和作 天地豊麗展



- a. 《志摩の波切村》 1913年 尾道市立美術館蔵
- b. 《人形を持つ娘》 1928年 東京国立近代美術館蔵
- c. 《通り雨》 1935年 愛知県美術館蔵
- d. 《ゆく春》 1951年 東京国立近代美術館蔵
- e. 《海》 1964年 山口県立美術館蔵
- f. 《婦人像》 1966年 山口県立美術館蔵
- g. 《秋山》 1967年 広島県立美術館蔵
- h. 《春の海》 1974年 山口県立美術館蔵



『天地豊麗』は、小林和作が好んで使っていた言葉で、昭和49年に出版された自薦画集の標題にも用いられました。

この『天地豊麗』ほか小林芸術を知る上で重要な画集、『春雪秋霜』(昭和47年)は、求龍堂から出版されました。求龍堂は和作が尾道に転居する前に東京で交流があった石原龍一が、大正12年に設立した美術書籍の出版社です。

和作は、昭和49年11月にスケッチ旅行中に不慮の事故で亡くなり、はからずも、『天地豊麗』は自ら掲載作品を選んだ最後の画集となりました。